連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

在庫効率の改善に向けて

たな卸資産は前期末比109.4%と売上高伸び率を上回りました。たな卸資産増の内訳は主に2016年秋冬商品および2017年春夏商品によるもので、消化促進等に伴う2018年3月期への業績への影響は軽微である見通しです。2018年3月期については、重点取組課題の一つに「在庫効率の改善」を掲げました。品番数を削減し商品の完成度を高めるとともに、商品投入の時期と量の適正化を行い、在庫効率の改善を目指します。

当社の未収入金について

流動資産に含まれる未収入金について、2017年3月末では101億円（前期末比103.7%）となりました。当社の未収入金は、出店商業施設に対するものとクレジットカード会社に対するものの主に2種類あります。それぞれの売上は経費等が精算された後、約15日サイクルで当社へ入金されるため、安全性の高い債権です。

長短借入金の増加の背景

長短借入金残高は、主に自己株式の取得により前期末比224.4%の137億円となりました。

自己株式を取得

資本効率の向上を図るとともに、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策遂行のため、2016年11月から2017年3月にかけ、1,890,700株（発行済株式総数の6.3%）、約60億円分の自己株式を取得しました。

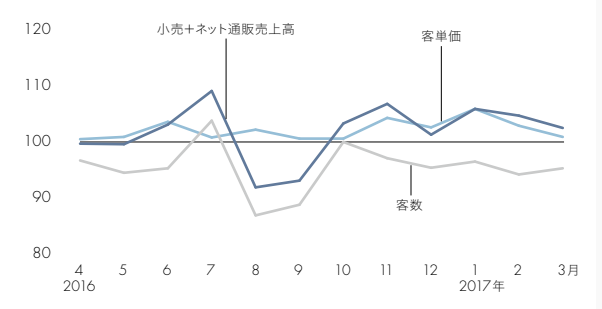
単位：百万円	2016年3月期（2016年3月31日現在）	2017年3月期（2017年3月31日現在）	前期末比（%）
資産の部			
流動資産	42,367	45,152	106.6
（うち、たな卸資産）	23,966	26,210	109.4
固定資産	21,510	22,646	105.3
有形固定資産	9,658	10,209	105.7
無形固定資産	1,850	1,965	106.2
投資その他の資産	10,001	10,471	104.7
資産合計	63,877	67,799	106.1
負債の部			
流動負債	24,964	29,805	119.4
固定負債	5,152	7,012	136.1
負債合計	30,117	36,818	122.2
純資産の部			
資本金	3,030	3,030	100.0
資本剰余金	4,095	4,128	100.8
利益剰余金	26,712	29,515	110.5
自己株式	△0	△6,000	—
株主資本合計	33,838	30,673	90.6
その他の包括利益累計額合計	△82	△42	51.4
純資産合計	33,760	30,980	91.8
負債・純資産合計	63,877	67,799	106.1

（株）ユナイテッドアローズの既存店売上高の動向

2017年3月期の小売＋ネット通販既存店売上高前期比は上半期：99.9%、下半期：104.0%、通期：102.0%となりました。通期の小売既存店客数前期比は96.0%、小売既存店客単価前期比は101.9%となりました。

上半期については、特に晩夏・初秋における天候不順等に対して的確に対応できなかったことなどにより苦戦しましたが、下半期よりお客様の購買モチベーションに添った柔軟な商品投入や売り場作り等を推進し、既存店売上は回復傾向にあります。小売既存店客数前期比は通期で96.0%でしたが、参考値として、当社で買上客数の把握できる「ユナイテッドアローズ オンラインストア」および「ゾゾタウン」の客数も加味した小売＋ネット通販既存店客数前期比は通期で102.0%と前期を上回りました。

2017年3月期 既存店売上高・客数・客単価 前期比



連結損益計算書（要約）

売上高は前期比103.3%と増収、売上総利益率は前期差0.2ポイント改善

グループ各社の新規出店やネット通販の伸長等により、売上高は前期比103.3%の1,455億円となりました。売上総利益率は為替の影響等により、前期に比較し0.2ポイント改善の51.0%となりました。2018年3月期につきましても、引き続きネット通販等の伸長および定価販売比率の改善等により、増収および売上総利益率の改善を目指します。

販管費率は前期比1.7ポイント増加

欠員補充や抑制していた昇格率の見直しによる人件費の増加および大型出店やネット通販に対する広告宣伝の拡大等により、販管費率は前期比1.7ポイント増の44.7%となりました。なお、2018年3月期につきましても、引き続き欠員補充等を行うことにより、前年と同水準（44.7%）の販管費率を見込んでいます。

経常利益は前期比84.3%の94億円

以上の結果、経常利益は前期比84.3%の94億円と減益となりましたが、2016年10月に開示した修正計画における経常利益額92億円に対しては若干上回って着地しました。2018年3月期につきましては、増収および売上総利益率の改善等により、増益を目指します。

単位：百万円	2016年3月期（2015年4月1日—2016年3月31日）	2017年3月期（2016年4月1日—2017年3月31日）	前期比（%）
売上高	140,919	145,535	103.3
売上原価	69,345	71,379	102.9
売上総利益	71,573	74,155	103.6
販売費及び一般管理費	60,501	64,990	107.4
営業利益	11,071	9,165	82.8
営業外収益	226	367	162.1
営業外費用	122	112	91.5
経常利益	11,175	9,420	84.3
特別利益	64	0	0.4
特別損失	789	1,366	173.0
税金等調整前当期純利益	10,450	8,054	77.1
法人税、住民税及び事業税	3,885	3,401	87.5
法人税等調整額	75	△559	—
親会社株主に帰属する当期純利益	6,494	5,191	79.9

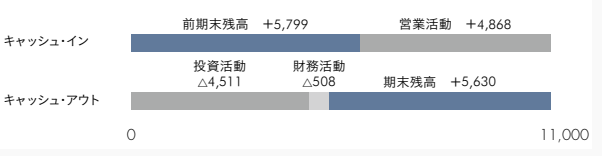
キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益80億円、減価償却費18億円などの収入があった一方、たな卸資産の増加額22億円、法人税等の支払額45億円などの支出があったことで、48億円のキャッシュ・インとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、新規出店等に伴う有形固定資産の取得30億円などの支出があったことで、45億円のキャッシュ・アウトとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の増加額60億円、短期借入金の増加額41億円などの収入があった一方、自己株式の取得60億円、配当金の支払額23億円、長期借入金の返済25億円などの支出があったことで、5億円のキャッシュ・アウトとなりました。

単位：百万円	2016年3月期（2015年4月1日—2016年3月31日）	2017年3月期（2016年4月1日—2017年3月31日）	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー（小計）	14,674	9,431	△5,242
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,689	4,868	△6,820
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,351	△4,511	△1,159
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,139	△508	7,630
現金及び現金同等物の期末残高	5,799	5,630	△168

キャッシュ・フローの状況

百万円